

事務事業名		博物館教育普及事業		<input type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間	
	施策名	11 生涯学習の推進		区分	
	基本事業名	03 学習活動の促進		単年度繰返	
根拠法令		博物館法		※期間欄に開始年度を記入	
所属	部課名	教育委員会博物館		【開始年度】	
	課長名	伊藤 真紀子		昭和58 年度～	
	係名	博物館	電話	0192-29-2161	
	担当者	佐藤 貴裕	内線	-	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				事務事業区分	
・市民に対して、博物館資料や気仙地域の自然と文化を普及するための事業。 ・主な業務は、①体験学習・自然観察の実施、②生涯学習相談・専門研究対応の実施、③各種実務体験(博物館実習・職場体験・社会体験等)の受入、④学校教育との連携、⑤博物館講座の実施、⑥小学生向け「博物館スクール」の実施、⑦博物館職員派遣の実施、⑧所蔵資料の特別利用、⑨個人所蔵資料くん蒸サービスの実施など ・事業費は、体験学習/自然観察等の講師謝金、各種消耗品などに支出される。				E 一般	
				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		
			都道府県支出金		
			地方債		
			その他		
			一般財源		
		事業費計(A)	0		
人件費		正規職員従事人数			
		延べ業務時間			
		人件費計(B)	0		
				トータルコスト(A)+(B)	
				0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動) 体験学習「まがたまをつくろう」、海辺の生物観察会、博物館スクール、教員のための博物館の日、博物館講座、生涯学習相談など	名称 単位
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 地質観察会、縄文土器製作会、博物館スクール、教員のための博物館の日、博物館講座、生涯学習相談など	ア 博物館スクールの実施回数 回
	イ 生涯学習相談の対応件数 件
	ウ 博物館職員の派遣回数 回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市民	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
	名称 単位
	カ 人口 人
	キ
	ク
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 教育普及事業を通して、気仙地域の自然と文化について学ぶことができる	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
	名称 単位
	サ 普及事業への参加者数 人
	シ
	ス
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 主体的な学習活動が行われている	

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千円	50	0	26	60	65	65
		都道府県支出金	千円	0	0	86	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	117	129	71	102	65	65
		事業費計(A)	千円	167	129	183	162	130	130
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	700	700	700	700	700	700
		人件費計(B)	千円	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800
		トータルコスト(A)+(B)	千円	2,967	2,929	2,983	2,962	2,930	2,930
⑤活動指標	ア	回	5	5	3	5	5	5	
	イ	件	46	61	64	50	50	50	
	ウ	回	1	2	0	2	2	2	
⑥対象指標	カ	人	34,796	33,948	33,238	34,000	34,000	34,000	
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	人	642	615	1,020	650	650	650	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0901	事務事業名	博物館教育普及事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	昭和58年、新館開館の翌年から、各種普及事業を開始した。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	東日本大震災後、一部の普及事業(自然観察・体験学習等)の実施を見送っていたが、平成27年度以降は地質観察会、海辺の生物観察会、植物観察会、縄文土器製作会、まが玉製作会、博物館スクール等を順次復活させるなど、震災以前の普及活動の水準に戻っている。 また、平成29年度からは、独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会と連携し、「教員のための博物館の日」を開催している。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	博物館スクールでは、実物を観察しながらの学習は理解が深まるとの意見が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	▽ 理由・内容 普及事業への参加は、主体的な学習活動に直結する。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	▽ 理由・内容 市の生涯学習施設である博物館が、普及事業を通して市民の主体的な学習活動を支援することは、市の施策として妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	▽ 理由・内容 市民等に博物館資料や自然文化を普及し学習活動の促進を図る事業であり、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	▽ 理由・内容 現在の学芸員の体制では、手一杯の状態である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	▽ 理由・内容 専門的な生涯学習の機会が少なくなり、市民の学習活動への支援に支障をきたす。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 自然観察・体験学習は隔年開催にするなど、事業費の削減を図っている。体験学習等で費用がかかる場合には、参加費を設定し徴収している。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 費用を最小限にして市民の学習興味を喚起するためには、事業内容の工夫などに専門職員(学芸員)等の相当な人手と時間がかかることはやむを得ず、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	▽ 理由・内容 体験学習等で参加費用がかかる場合には実費負担を求めている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	「おおふなとしぜん かわらばん」は、三陸ジオパーク関連事業として市から県へ移管され、令和3年度から「さんりくジオパークかわらばん」として拡大・発展し、広域で実施されている。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																									

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	地域の自然や文化に触れた幼い頃の体験や学習が、大人になってからの郷土の誇りや文化財愛護意識の醸成に繋がる。幅広い年代層のニーズを把握し、個々の興味を満たしてさらに学習意欲を掻き立てるような学習活動を促進していく必要がある。